

専門ゼミ/専門科目

科目名	サブタイトル	担当教員	配置学年
都市・地域交通論ゼミ	都市交通と地域交通の現状 および問題点を研究	栗田 善吉	2年次通年
講義の目的	都市交通、地域交通の現状とそれぞれが抱える問題点を正しく認識し、各自が興味を持ったテーマについて、深く学習してもらいます。		
到達目標	各自テーマを設定し、関連する膨大な資料、データの中から、各自のテーマに沿った内容を取捨選択して収集すること、および収集した資料、データの纏めや加工ができる能力を身につけること、さらに、それらをもとに、卒業論文を作成することが到達目的です。		
講義内容	「交通」について学ぶとき、交通機関別あるいは旅客輸送と貨物輸送といった視点からの学習もありますが、本ゼミでは、都市交通、地域交通といった視点で「交通」の現状と問題点について深く学習します。例えば、都市交通に関しては、人口集中による混雑現象や環境問題、一方、地域交通に目を転じれば過疎化による公共交通機関の存廃問題等、未だ解決できていない問題が山積しています。こうした問題を正しく認識し、その解決策を一緒に検討します。		
講義スケジュール	第1講	ゼミメンバー自己紹介、役職者の決定、論文作成の手順やルールの説明	
	第2講	都市交通に関する文献の輪読（都市形成と交通）	
	第3講	都市交通に関する文献の輪読（混雑問題と解消策）	
	第4講	都市交通に関する文献の輪読（交通と環境問題）	
	第5講	都市交通に関する文献の輪読（今後の交通ネットワークの形成と交通問題の行方）	
	第6講	地域交通に関する文献の輪読（地域住民と鉄道の関係）	
	第7講	地域交通に関する文献の輪読（地域住民と路線バスの関係）	
	第8講	地域交通に関する文献の輪読（地域住民と自家用車利用の関係）	
	第9講	地域交通に関する文献の輪読（地域公共交通を守るための自治体の取り組み）	
	第10講	地域交通に関する文献の輪読（地域公共交通を守るための事業者取り組み）	
	第11講	各種交通統計と関連統計の検討、収集・加工方法について	
	第12講	都市交通に関する文献リストの作成	
	第13講	地域交通に関する文献リストの作成	
	第14講	卒業論文執筆企画書の記載方法についての説明	
	第15講	前期のゼミのまとめと夏季休業中の課題について	

講義スケジュール	第 16 講	卒業論文企画書に基づいた調査結果の報告（都市形成と交通）、卒業論文指導
	第 17 講	卒業論文企画書に基づいた調査結果の報告（混雑問題と解消）、卒業論文指導
	第 18 講	卒業論文企画書に基づいた調査結果の報告（交通と環境問題）、卒業論文指導
	第 19 講	卒業論文企画書に基づいた調査結果の報告（今後の交通ネットワークの形成と交通問題の行方）、卒業論文指導
	第 20 講	卒業論文企画書に基づいた調査結果の報告（地域住民と鉄道の関係）、卒業論文指導
	第 21 講	卒業論文企画書に基づいた調査結果の報告（地域住民と路線バスの関係）卒業論文指導
	第 22 講	卒業論文企画書に基づいた調査結果の報告（地域住民と自家用車利用の関係）卒業論文指導
	第 23 講	卒業論文企画書に基づいた調査結果の報告（地域公共交通を守るための取り組み）卒業論文指導
	第 24 講	卒業論文企画書に基づいた調査結果の報告（その他テーマ）、卒業論文指導
	第 25 講	卒業論文概要のプレゼンテーションとディスカッション（都市交通関係 1）
	第 26 講	卒業論文概要のプレゼンテーションとディスカッション（都市交通関係 2）
	第 27 講	卒業論文概要のプレゼンテーションとディスカッション（地域交通関係 1）
	第 28 講	卒業論文概要のプレゼンテーションとディスカッション（地域交通関係 2）
	第 29 講	卒業論文概要のプレゼンテーションとディスカッション（その他テーマ）
第 30 講	本ゼミの総括と卒業論文の提出	
指導方法	受け身の授業ではなく、ゼミ生一人ひとりが主体となって各自のテーマを設定し（学習したいことを自分で決める）、最終的に卒業論文を作成してもらいます。1年間を通して、卒業論文作成に向けての個人指導・支援を行って行きます。時間割の時だけでなく、オフィス・アワー、その他、時間の許す限り対応しますので、早め早めの準備や取り組みを心掛けて下さい（要予約）。	
授業外学習	常に、自らの卒業論文のテーマに関する文献を収集し、読み込んで重要事項をまとめて下さい。また、他のゼミ生のテーマを共有し、質問事項を考えておくとともに、ディスカッションの内容について、メモ書き等でも結構ですので必ずまとめておいて下さい。	
成績評価方法	卒業論文 60%、平常点(調査・報告・議論) 40%	
ステキ	各自のテーマに沿った文献や資料、情報等について、収集方法も含め、逐次、紹介・指導して行きます。	
書籍参考	「論文・レポートの書き方」等、類似した題名の書籍に目を通しておいて下さい。	
事項記	初回のゼミ時に、取り組み姿勢について説明します。	

科目名	サブタイトル	担当教員	配置学年
交通判例分析ゼミ	交通事故の法律関係	松岡 弘樹	2年次通年
講義の目的	<p>自動車・鉄道・航空機による事故は、一旦、惹起すると多数の死傷者が発生します。又、これに伴って発生する賠償金の額も年々増加の一途を辿っています。交通機関が発達し、我々の身近になればなるほど、我々が交通事故に遭遇し、加害者・被害者の立場になる可能性も増すといえるでしょう。</p> <p>本ゼミでは、交通事故の判例を分析することを通じて、交通関係の法律の体系を学ぶことを目的として講義を進めていきます。</p>		
到達目標	<p>本ゼミでは、実際の判例を学ぶことにより、法的な解決能力を身に付けることを到達目標として、講義を行います。</p>		
講義内容	<p>本ゼミでは、毎週各自が関心を持った判例について報告を行い、全員で議論を行います。これによって、実際に交通事故に遭遇した場合に、どのような法律関係が生じ、それに対して具体的にどのように対応すべきかを学習します。あわせて、判例研究を通じて得た知識・議論を踏まえて、卒業論文を作成します。</p>		
講義スケジュール	第1講	前期オリエンテーション	
	第2講	判例研究(1)：刑事責任と民事責任（同一事故における刑事責任と民事責任の関係）	
	第3講	判例研究(2)：運行供用者責任①（返還約束違反と運行供用者）	
	第4講	判例研究(3)：運行供用者責任②（親の子に対する運行供用者責任）	
	第5講	判例研究(4)：運行供用者責任③（マイカー通勤による事故）	
	第6講	判例研究(5)：運行と運行起因性（ロープによる牽引中の事故）	
	第7講	判例研究(6)：事故原因との相当因果関係（予備バッテリーによる爆発事故）	
	第8講	判例研究(7)：原因競合と事故の競合（骨髄炎の再発と事故の寄与度）	
	第9講	判例研究(8)：他人性（泥棒運転の他人性）、論文の書き方の指導	
	第10講	判例研究(9)：信頼の原則（青信号で直進した運転者の注意義務）、卒業論文テーマ選択指導①	
	第11講	判例研究(10)：欠陥車（ブレーキの欠陥と事故との相当因果関係）、卒業論文テーマ選択指導②	
	第12講	判例研究(11)：道路管理の瑕疵（故障車の放置と道路管理の瑕疵）、卒業論文テーマ選択指導③	
	第13講	判例研究(12)：国賠法1条1項の責任（パトカーの追跡行為の違法性の要件）、卒業論文テーマ発表①	
	第14講	判例研究(13)：物損事故（中古車の価格の算定）、卒業論文テーマ発表②	
	第15講	前期のゼミのまとめ	

講義スケジュール	第 16 講	後期オリエンテーション
	第 17 講	判例研究(14)：損害賠償額の算定①（墓碑、仏壇の費用）、卒業論文指導①
	第 18 講	判例研究(15)：損害賠償額の算定②（胎児の死亡による損害）、卒業論文指導②
	第 19 講	判例研究(16)：損害賠償額の算定③（休業損害）、卒業論文指導③
	第 20 講	判例研究(17)：評価損（事故による評価損の算定方法）、卒業論文指導④
	第 21 講	判例研究(18)：損益相殺（保険金との相殺）、卒業論文指導⑤
	第 22 講	判例研究(19)：過失相殺（被害者の過失相殺率）、卒業論文指導⑥
	第 23 講	判例研究(20)：示談の効力（後遺症と示談の効力）、卒業論文指導⑦
	第 24 講	判例研究(21)：事故と時効（事故の起算点）、卒業論文中間発表①
	第 25 講	判例研究(23)：任意保険と事故（酩酊運転）、卒業論文中間発表③
	第 26 講	判例研究(23)：任意保険と事故（酩酊運転）、卒業論文中間発表③
	第 27 講	判例研究(24)：運転者の注意義務（ドアの開閉と注意義務）、卒業論文指導⑧
	第 28 講	判例研究(25)：予見可能性（ハイドロプレーニング現象による事故）、卒業論文指導⑨
	第 29 講	判例研究(26)：速度取締り（自動速度取締装置による写真撮影の合憲性）、卒業論文指導⑩
	第 30 講	後期のゼミのまとめ
方法指導	ゼミは特に、学生諸君の自主性が必要とされる科目です。ゼミ活動は、学生諸君が中心となって行うものである、という意識を常にもって、ゼミに臨むことを希望します。	
授業外 学習	本ゼミで学ぶ判例は多岐に渡るため、下記の参考文献等を参考にして、講義スケジュールの各判例について、事前に予習をし、講義後に復習するようにして下さい。	
成績評価 方法	卒業論文（40%）、平常点（判例報告（30%）、議論（30%））で評価します。	
テキスト	「新交通事故判例百選（第5版）」（別冊ジュリスト 233）新美育文・山本豊・古笛恵子編 （有斐閣）	
書籍 参考	「新版 交通損害賠償の基礎（基礎法律体系 20）」小川正三郎・川井健・鈴木潔・宮原守男編著 （青林書院）、「交通事故事例研究」兼頭吉市著（大成出版）	
事項 特記		

科目名	サブタイトル	担当教員	配置学年
経済政策論ゼミ	市場社会の経済的分析	高橋 真悟	2年次通年
講義の目的	前期は、経済の基礎知識の習得と研究・発表手法を身につけることを目的として、テキストの精読を中心に進めて行きます。後期は、各自の卒業論文完成を最大の目的として、個々のテーマ設定と用いる資料・データ、アウトライン、最終的な結論の各段階において、お互いにコメントし合い、より良い論文内容に仕上げることが目指します。		
到達目標	前期は、経済的分析のための基礎知識の習得と研究手法および発表方法を身につけることが到達目標です。後期は、資料やデータを用いて各自の卒業論文を執筆し、根拠に基づいた論文を完成させることを最終的な到達目標とします。		
講義内容	本ゼミでは現代の市場社会の特徴について、経済的側面から分析を行います。具体的には資源、貿易、人口などについての地理的分析をすることから、現代の経済的諸問題を議論していきます。また、卒業論文の執筆に必要な文章表現能力も合わせて磨いていきます。とくに、説得力のあるアウトライン(序論・本論・結論)の作成に十分な時間をかけ、個別指導も行っていきます。		
講義スケジュール	第1講	前期オリエンテーション	
	第2講	テキストの輪読と議論(1)～経済をつかむ地理の視点～	
	第3講	テキストの輪読と議論(2)～立地：日本の経済戦略ほか～	
	第4講	テキストの輪読と議論(3)～立地：経済大国のキーワードほか～	
	第5講	テキストの輪読と議論(4)～資源：資源大国としての日本ほか～	
	第6講	テキストの輪読と議論(5)～資源：資源大国ロシア・ブラジルほか～	
	第7講	卒業論文の構想報告会～仮テーマの設定～	
	第8講	テキストの輪読と議論(6)～貿易：アメリカのTPP離脱ほか～	
	第9講	テキストの輪読と議論(7)～貿易：中国の経済事情ほか～	
	第10講	テキストの輪読と議論(8)～人口：人口大国の共通点ほか～	
	第11講	テキストの輪読と議論(9)～人口：スウェーデンの移民政策ほか～	
	第12講	テキストの輪読と議論(10)～文化：衣食住に関する地域性の成り立ち～	
	第13講	卒業論文の構想～テーマと参考文献の調査～	
	第14講	卒業論文の構想報告会～テーマと参考文献の決定～	
	第15講	前期まとめ	

講義スケジュール	第 16 講	後期オリエンテーション
	第 17 講	卒業論文の作成指導：アウトラインの構想（1）～これまでの復習～
	第 18 講	卒業論文の作成指導：アウトラインの構想（2）～参考文献の確認～
	第 19 講	卒業論文の作成指導：アウトラインの構想（3）～参考資料の追加～
	第 20 講	卒業論文の途中報告：アウトラインの発表（1）～問題提起の検討～
	第 21 講	卒業論文の途中報告：アウトラインの発表（2）～序論の検討～
	第 22 講	卒業論文の途中報告：アウトラインの発表（3）～仮の結論の検討～
	第 23 講	卒業論文の途中報告：アウトラインの発表（5）～全体の検討～
	第 24 講	卒業論文の途中報告：アウトラインの発表（6）～改善点の確認～
	第 25 講	卒業論文の作成指導：論文の修正と個別指導（1）～問題提起の確認～
	第 26 講	卒業論文の作成指導：論文の修正と個別指導（2）～序論の確認～
	第 27 講	卒業論文の作成指導：論文の修正と個別指導（3）～結論の確認～
	第 28 講	卒業論文の作成指導：論文の修正と個別指導（4）～結論の根拠の確認～
	第 29 講	卒業論文の作成指導：論文の修正と個別指導（5）～形式面の確認～
第 30 講	まとめ	
方法指導	テキストを用いた輪読・議論と卒業論文の報告・執筆を中心に進めていきます。	
授業外学習	授業前の事前学習として、前期はテキストの通読と不明点の把握が必要になります。後期は各自の研究に必要な資料調査をするようにしてください。事後学習としては、教員からのコメントを活かしたレジュメづくり（前期）、卒論執筆（後期）を行ってください。	
成績評価方法	卒業論文 50%、平常点（報告・議論） 50%	
テキスト	宮路秀作『経済は地理から学べ！』ダイヤモンド社、2017年。	
書籍参考	特になし。	
事項記		

科目名	サブタイトル	担当教員	配置学年
交通論ゼミ	日本・外国の交通や交通に関する政策を深く理解する	藤井 大輔	2年次通年
講義の目的	日本の交通事業とそのシステム、交通サービス産業の現状を理解し、外国の交通を参考にして、交通政策のあり方について論理的に追究する。		
到達目標	外国の交通についても参考にしながら、日本の交通事業とそのシステム、交通サービス産業の現状、そして交通政策のあり方について、さまざまな文献やデータに当たりながら論理的に追究し、ゼミ生各自が卒業論文を書き上げることを目標とする。		
講義内容	日本の交通事業とそのシステム、交通サービス産業の現状を理解し、外国の交通を参考にして、交通政策のあり方について論理的に追究する。対象となる交通政策は、例えば整備新幹線や並行在来線の問題、大都市内の交通、ルーラル地域の交通、空港や高速道路インフラの整備、DMV、LRT や自動運転自動車など新しい技術を用いた交通などである。		
講義スケジュール	第1講	前期オリエンテーション:「卒業論文を書く」ことの意義	
	第2講	卒業論文に向けた問題意識の設定	
	第3講	ゼミ生各自の問題意識について議論しあう (1)	
	第4講	ゼミ生各自の問題意識について議論しあう (2)	
	第5講	ゼミ生各自の問題意識について議論しあう (3)	
	第6講	ゼミ生各自の問題意識について議論しあう (4)	
	第7講	ゼミ生各自の問題意識について議論しあう (5)	
	第8講	問題意識の解明に必要な文献・データを紹介する (1)	
	第9講	問題意識の解明に必要な文献・データを紹介する (2)	
	第10講	問題意識の解明に必要な文献・データを紹介する (3)	
	第11講	卒業論文の枠組をプレゼンテーションする (1)	
	第12講	卒業論文の枠組をプレゼンテーションする (2)	
	第13講	卒業論文の枠組をプレゼンテーションする (3)	
	第14講	卒業論文の枠組をプレゼンテーションする (4)	
	第15講	ゼミ合宿について	

講義スケジュール	第 16 講	後期オリエンテーション
	第 17 講	卒業論文での序論・本論・結論の筋書きを議論する (1)
	第 18 講	卒業論文での序論・本論・結論の筋書きを議論する (2)
	第 19 講	卒業論文での序論・本論・結論の筋書きを議論する (3)
	第 20 講	卒業論文での序論・本論・結論の筋書きを議論する (4)
	第 21 講	卒業論文での序論・本論・結論の筋書きを議論する (5)
	第 22 講	卒業論文の本格的な執筆に向けた説明
	第 23 講	卒業論文執筆進捗状況指導 (1)
	第 24 講	卒業論文執筆進捗状況指導 (2)
	第 25 講	卒業論文執筆進捗状況指導 (3)
	第 26 講	卒業論文執筆進捗状況指導 (4)
	第 27 講	卒業論文執筆進捗状況指導 (5)
	第 28 講	卒業論文執筆進捗状況指導 (6)
	第 29 講	卒業論文執筆進捗状況指導 (7)
第 30 講	卒業論文の最終確認	
指導方法	自分自身が「どこが、どのように問題で、もっとよりよくすればいいのか」と考え抜く。そして、その問題意識の下で、冷徹な頭脳で研究でき、徹底して調べ、自分の力で論じることをいとわない。この姿を求めて指導する。	
授業外学習	このゼミでは、卒業論文を執筆するために、問題意識をどう設定するか、文献やデータの在り処、論文の筋書きなど、相当な授業外学習が必要である。この授業外学習では、多くの書籍・文献を読み込むことになる。	
成績評価方法	卒業論文 50%、平常点 50% (報告 25%、議論 25%)、計 100% で評価する。	
テキスト	運輸調査局、『運輸と経済』2013 年 4 月号「特集交通論を学ぶ」。(テキスト販売時には販売されないので注意する。前期第 1 講時に説明、指示する)	
参考書籍	日本交通学会編、『交通経済ハンドブック』、白桃書房、2011 年。ゼミ生各自の卒業論文の内容(問題意識など)に応じた参考書を、適宜、紹介する。	
事項記	ゼミ合宿(8 月、東日本大震災復興地の交通事情を視察)のほか、学外での学習活動も計画している。	

科目名	サブタイトル	担当教員	配置学年
鉄道史ゼミ	鉄道・交通と生活の関係・変化を理解する	濱 雄亮	2年次通年
講義の目的	鉄道や各種の交通機関は、様々な形で人々の生活に変化をもたらしましたし、今ももたらし続けています。人々の鉄道・交通機関の利用の仕方も、常に変化しています。こうした変化を、各自が収集した具体的なデータに基づいて丁寧に分析することで、鉄道・交通と生活の関係・変化に関するより良い論文作成を行います。		
到達目標	鉄道・交通と生活の関係・変化を理解するために必要となるデータを見極めて収集ができること、収集したデータの分析と書籍などからの情報に基づいて仮説が立てられること、仮説を教員・他の学生に対して説明できること、教員・他の学生からの質問・助言に基づいて仮説をよりよいものにしていけることを目指します。		
講義内容	前期は主に鉄道を中心とした交通の歴史とそれによる人々の生活の変化についての書籍・論文の「輪読」を行います。また、文章表現能力とプレゼンテーション能力を身につけるための指導を行います。後期は主に卒業論文作成指導と「発表」を行います。		
講義スケジュール	第1講	前期オリエンテーション	
	第2講	鉄道史(欧米)に関する文献の輪読と議論	
	第3講	鉄道史(明治前期)に関する文献の輪読と議論	
	第4講	鉄道史(明治後期・大正期)に関する文献の輪読と議論	
	第5講	鉄道史(昭和前期)に関する文献の輪読と議論	
	第6講	鉄道史(昭和中期)に関する文献の輪読と議論	
	第7講	鉄道史(昭和後期)に関する文献の輪読と議論	
	第8講	鉄道史(平成期)に関する文献の輪読と議論	
	第9講	卒業論文構想発表と議論	
	第10講	文献・ウェブ上の情報検索の方法の説明	
	第11講	鉄道とライフスタイルに関する文献の輪読と議論	
	第12講	鉄道とポピュラーカルチャーに関する文献の輪読と議論	
	第13講	鉄道と他の交通機関の関係に関する文献の輪読と議論	
	第14講	卒業論文関連文献の検討	
	第15講	前期のまとめ	

講義スケジュール	第 16 講	後期オリエンテーション
	第 17 講	卒業論文構想発表（夏休み中の成果）と議論
	第 18 講	卒業論文作成指導（序論における問いの設定）
	第 19 講	卒業論文執筆状況報告（序論における問いの設定）と議論
	第 20 講	卒業論文作成指導（本論におけるオリジナルデータの検討）
	第 21 講	卒業論文執筆状況報告（本論におけるオリジナルデータの検討）と議論
	第 22 講	卒業論文作成指導（本論における文献の取り扱い）
	第 23 講	卒業論文執筆状況報告（本論における文献の取り扱い）と議論
	第 24 講	卒業論文作成指導（本論における分析の方法）
	第 25 講	卒業論文執筆状況報告（本論における分析の方法）と議論
	第 26 講	卒業論文作成指導（結論におけるまとめ方）
	第 27 講	卒業論文執筆状況報告（結論におけるまとめ方）と議論
	第 28 講	卒業論文作成指導（形式・書式）
	第 29 講	卒業論文執筆状況報告（形式・書式）と議論
第 30 講	後期・通年のまとめ	
指導方法	前期は文献の「輪読」、後期は卒業論文作成指導と「発表」が中心となります。「輪読」とは、本の一部や論文を、指定された学生が要約して紙と口頭で報告することです。「発表」は、その時点までの卒業論文の執筆状況を報告し（口頭発表と紙の資料）、課題を明確にするためにおこなうものです。この他に、後期の途中ではその時点での卒業論文の全文を教員に提出させることがあります。	
授業外 学習	事前学習として、文献の読解・データの収集・（必要ならば）現地調査などが必要です。事後学習として、新たに発見した疑問や課題を解決するための文献の読解・データの収集・（必要ならば）現地調査などが必要です。	
成績評価 方法	平常点（発表・発言）：50%、卒業論文：50%。	
テキスト	用いない予定です。紙の資料を配布する予定です。	
参考 書籍	老川慶喜『日本鉄道史 幕末・明治篇』中央公論新社、2014年。同『日本鉄道史 大正・昭和戦前篇』中央公論新社、2016年。高階秀爾『鉄道がつくった日本の近代』成山堂書店、2014年。原田勝正『鉄道と近代化』吉川弘文館、1998年。他にも随時紹介予定。	
事項 特記	学外での見学会を行う場合があります。 自分は何になぜ興味・疑問があるのか、何を調べれば疑問が解消するのかについて、しっかりと考える姿勢を身につけましょう。	